

ちょっとそこまで ～お散歩日和（地域編）～

白子川調節池群

小学校４年生の社会科教科書（正確には、練馬区が独自に作成した副読本「わたしたちの練馬区・東京都」）には、「白子川調節池群（ちょうせつちぐん）」という聞き慣れない言葉が出てきます。場所は、関越と外環を接続する大泉ジャンクションとその周辺に位置します。



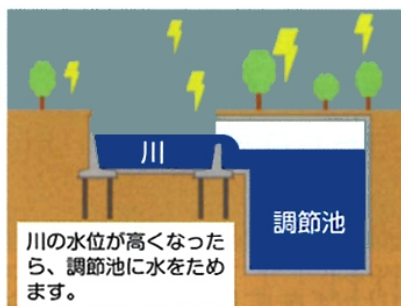
まず、白子川についてです。石神井川と並び、区内を流れる代表的な河川です。この川は、西東京市（谷戸周辺）から練馬区の北東を流れて埼玉県に入り、さらに都県境を流下し、板橋区内で新河岸川に合流する延長１０ｋｍ、流域面積２５ｋ㎡の一級河川です。じつは、ここ光が丘のすぐ近くを流れているのですが、何故か石神井川ほどの親近感を抱きません。少々残念な川と言えるかもしれません。

次に、調節池についてです。これは、洪水時に河川の水位が上昇すると護岸に設けられた越流堰から洪水が池内に流入し、下流の河道流量を軽減する役割をする池のことです。教科書では、次のような図で解説されています。

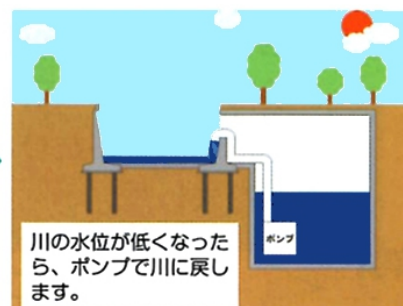
『調節池の仕組み』

調節池は、川の水が増えてあふれそうになった時に水を取り入れる施設です。調節池に川の水を取り入れることで、調節池より下流に流れる水の量をへらし、川から水があふれにくくします。

調節池にたまった水は、川の水位が低くなった後に川にもどします。



川の水位が高くなったら、調節池に水をためます。



川の水位が低くなったら、ポンプで川に戻します。

最近は地球温暖化の影響でしょう。局地的な集中豪雨による都市型水害があちこちで頻発しています。それを防ぐために建設されてきたのが白子川調節池群ということになります。ここは、前ページ上図にあるように3つの調節池で構成されています。

- ①地面を掘り下げて水を溜められる調節池（比丘尼橋上流調節池）
- ②地下にプールのように水を貯められる調節池（比丘尼橋下流調節池：橋戸公園）
- ③目白通りの地下35mにあり、直径10mの巨大トンネルに水をためる調節池



この3つの中で、今回ご紹介したかったのが3番目に挙げた目白通りの地下に建設された巨大トンネルについてです。大泉J Tの建設に合わせて造られた発進立て坑を完成させて以来、中断を経て、長い時間をかけて誰にも知られることなく工事は進行し、平成29年に竣工しました。



その「到達立坑」ですが、車を運転される方にとって目白通りはしばしば利用される機会は多いはずですが、にもかかわらず、ほとんどの人はその存在を知らずに通過しているように思います。場所は環八と目白通りの交差点、「練馬中央陸橋」の直下です。秘密を知ったような感覚を覚えて楽しいです。



ここに、石神井川からの取水口が見られます。そして、その奥は白子川へと繋がる地下トンネルというわけです。東京都の計画では、「神田川・環状七号線地下調節池」と、この「白子川地下調節池」の2つのトンネル式調節池を連結する「環状七号線地下広域調節池」の整備を進めているそうです。神田川や白子川など5つの河川から取水が可能となり、状況に応じて調節池の容量を融通することで、局地的かつ短時間の集中豪雨にも効果を発揮することになることが期待されます。

(終)